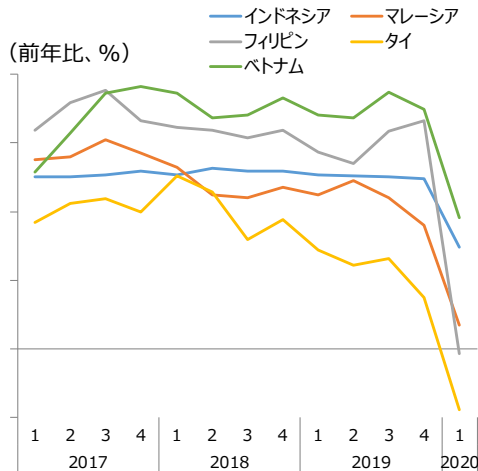


ASEAN

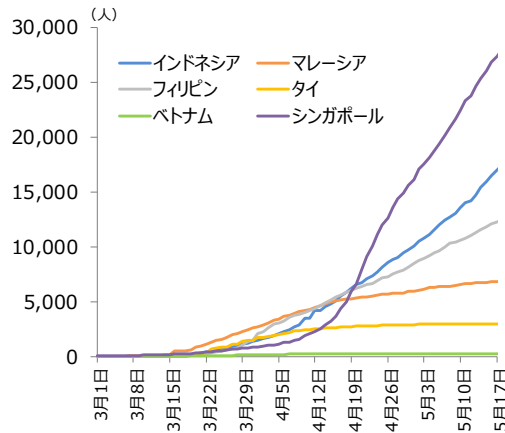
GDP (2020年1-3月期)
20年は98年以来のマイナス成長へ政策・経済研究センター
橋本琢磨
03-6858-2717

1 実質GDP成長率



出所：CEICより三菱総合研究所作成

2 新型コロナウイルス感染者数

注：直近は5月18日
出所：CEICより三菱総合研究所作成

評価ポイント

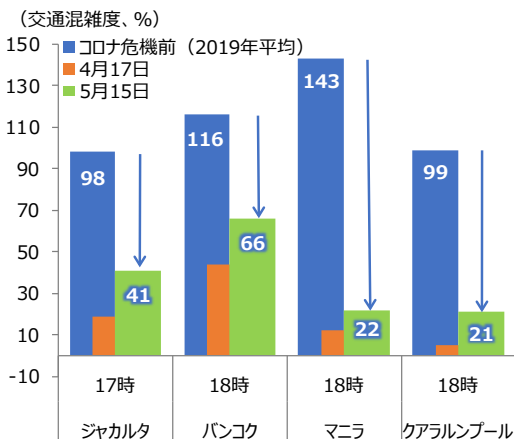
今回の結果

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、ASEAN経済も急速に悪化している。20年1-3月期の実質GDP成長率は、インドネシアで前年同期比3.0%、ベトナムで同3.8%、マレーシアで同0.7%と大きく減速した（図表1）。フィリピンは同▲0.2%と21年ぶりのマイナス成長に転じ、19年から減速していたタイは同▲1.8%と6年ぶりのマイナス成長となった。
- 製造業が多く集積するタイのGDPを需要項目別にみると、総固定資本形成は1-3月期前年同期比▲6.5%のマイナスとなり、成長率を押し下げた。また、インバウンド需要の落ち込みから、サービス輸出が同▲29.8%と大幅なマイナスとなった。
- 一方、同国の民間消費は同3.0%と前期（同4.1%）から小幅な減速に留まった。タイ政府は3月26日に非常事態宣言を発令、5月3日に一部緩和したものの、5月31日までロックダウン措置を継続しており、消費下押しの影響は4-6月期に顕在化しよう。

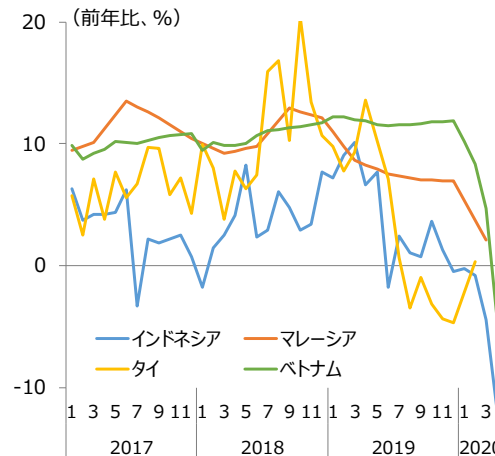
基調判断と今後の流れ

- 20年1-3月期のASEAN経済は、新型コロナの震源地となった中国での景気減速、移動禁止措置などにより、対中輸出の減少、サプライチェーン寸断および中国人旅行者の減少などが下押し要因となった。特に、タイGDPに占める観光産業の割合は19.8%（19年）と高く、同国の外国からの旅行者数は3月に前年同月比▲76.4%と大幅減となっている。
- 3月下旬以降、ASEAN地域でも感染者数が増加（図表2）、各国政府は感染拡大の防止のため、厳格な企業活動の制限や国民の外出規制措置をとっており、内需の深刻な落ち込みを招いている。オランダTomTomによる交通渋滞データをみると、19年と比べてASEAN主要都市の道路交通量が大きく減少していることがうかがえる（図表3）。
- 足もと4月の消費統計が出ているのはインドネシア、ベトナムの二国のみ。インドネシアの20年4月小売売上高指数は前年同月比▲11.8%と、前月同▲4.5%からマイナス幅が拡大した（図表4）。ベトナムでも同▲4.3%とマイナスに転じている。急速な需要蒸発に伴い、20年4-6月期のGDPは1-3月期よりもさらに深刻なマイナス成長となる可能性が高い。
- 20暦年でもマイナス成長を見込む。仮にASEAN5が暦年でマイナス成長となれば98年以来だ。失業や休業に伴う家計・企業債務が拡大するなか、既に高水準の債務を抱えるマレーシアやタイで不良債権が拡大する可能性が高く、金融システムへの波及が懸念される。

3 経済活動抑制状況（交通混雑度）

注：例えば交通混雑度50%の場合、全く混雑していない状態に比べて30分の移動の時間にかかる時間が50%長くなる。
出所：TomTomより三菱総合研究所作成

4 小売売上高指数



出所：CEICより三菱総合研究所作成